

# 館長だより第26号（2021・7）

## 令和3年度夏期企画展

### 「古代紀伊の神まつり」の開催について

コロナウィルス第三次緊急事態宣言が解除され、蔓延防止等重点措置に移行しましたが、あらたに変異ウィルスが次々に明らかになり、第四次緊急事態宣言も発出されるのではという憶測も飛び交っており、まだまだ落ち着かない今日この頃です。新型コロナ感染防止のためのワクチン接種も高齢者層が進み、若い世代への接種も開始され始めたようですが、全国民に至るまでにはまだ時間を要するようです。皆様方には、感染予防のため日々たえざる努力を続けられているものと拝察申し上げます。

和歌山県立紀伊風土記の丘では、6月27日（日）「和歌山県内埋蔵文化財調査成果展「紀州の歩み—発掘された郷土の歴史—」を好評のうちに終了いたしました。ご来館いただきました方々に御礼申し上げます。

さて、来る7月17日（土）から令和3年度夏期企画展「古代紀伊の神まつり」を開催いたします。

原始以来、日本では、身の回りの木々や水、火など様々なものに神や精霊が宿っていると信じられていました。こうした精霊や神々は、穀物の豊かな実りや子孫繁栄など人々に恵みをもたらしてきました。しかし一方で、それらの神々は荒ぶる神として自然災害や疫病などの災いを人々にもたらすとも考えられていました。

このため人々は恵みを求めて、あるいは災いを避け、鎮めるため、様々な祭祀具を用いて神々への祭りを行ってきました。

例えば農耕が始まった弥生時代には、銅鐸など青銅器を用いた祭祀があり、飛鳥時代以降には、人形木製品などの祭祀具を用いるなど時代とともに変化してきました。また祀られる対象や祭祀執行者も、個人、ムラ、国など時代とともに変化し、祭祀具についても異なっていたと考えられています。

本展では、県内出土資料を中心に縄文時代から平安時代における集落や水辺、磐座など様々な場所で行われた神まつりについて出土祭祀具を中心に紹介し、そこに込められた人々の祈りや思いなどについて考えていきたいと思っております。

#### 【展示構成と主な展示予定品】

##### 第1章 石棒と土偶—縄文時代の祈りの道具

柏原遺跡—石棒、土偶（橋本市教育委員会）

丁ノ町・妙寺遺跡—石棒（和歌山県教育委員会）

徳藏地区遺跡—石棒、岩偶（みなべ町教育委員会）

川辺遺跡—遮光器土偶、石刀（和歌山県教育委員会）

## 第2章 青銅器のまつり、弥生時代の祈りの道具

柏原遺跡——石剣、楔形石器、碧玉製管玉（橋本市教育委員会）

血縄遺跡——石棒、碧玉製管玉、石釧（橋本市教育委員会）

日高郡みなべ町晩稲出土、下の尾銅鐸（和歌山県教育委員会）

徳藏地区遺跡——鳥形木製品（みなべ町教育委員会）

山田代銅鐸（複製）、（和歌山県立紀伊風土記の丘）

## 第3章 多様化する祈りのかたち—古墳時代の祈りの道具

西庄遺跡——子持ち勾玉、卜骨、骨角器等（和歌山県教育委員会）

鳴滝1号墳——子持ち勾玉（和歌山県教育委員会）

大日山I遺跡——土器、滑石製模造品等（和歌山県教育委員会）

井辺遺跡——籠目土器、土師器（和歌山市）

坂田山遺跡——須恵器、滑石製模造品等（白浜町教育委員会）

## 第4章 人形祭祀具の成立—飛鳥・奈良・平安時代の祈りの道具

稲成I遺跡——木製祭祀具・土器（和歌山県教育委員会）

野田地区遺跡——木製祭祀具等（有田川町教育委員会）

鳴神V遺跡——土馬（和歌山県教育委員会）

太田・黒田遺跡——土馬（和歌山県教育委員会）

川辺遺跡——土馬（和歌山市）

岸宮祭祀遺跡——瑞花鴛鴦鏡、鐸形銅器、滑石製有孔石製品、土師器、須恵器、黒色土器、瓦器、緑釉陶器等（紀の川市教育委員会、和歌山県教育委員会）、

隅田八幡経塚【県指定文化財】——外容器、銅鏡、刀子等（橋本市教育委員会）

プロローグ

田辺城下町遺跡——土師器皿（和歌山県教育委員会）

民俗資料：土馬・絵馬・流し雛・お守り等（和歌山県立風土記の丘）

### 【関連行事】

夏期企画展展示講座 令和3年8月29日（日）13:30~15:30

### 【開館時間・休館日】

開館時間 9:30~16:30（入館は16:00まで）

休館日:毎週月曜日（月曜日が祝日または休日の場合は次の平日）

### 【入館料】

一般 190円（20名以上は団体割引、150円）

大学生 90円（20名以上は団体割引 70円）

\*高校生以下、65歳以上、障害手帳などをお持ちの方、県内在住の留学生は無料（証明書の提示が必要）